

【課題名】化粧品等による皮膚障害症例の調査解析および情報ネットワークの確立

【研究組織】多施設共同研究（研究組織：日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会）

【研究の目的と内容】

接触皮膚炎は、どのような物質・製品でも起こりうる可能性があります。原因物質の情報が迅速に行政や企業に伝われば物質や製品の供給が中止もしくは改良され、早期に事態を収束することができます。

そこで、それらの情報を発信するシステムの確立を目的とする臨床試験を行います。具体的には、ウェブサイトにて医師が情報を登録します。収集した情報は事務局が解析し、公表が必要なデータは迅速に医療機関、行政、企業に公表します。なお、このウェブサイトでは、登録医師が必要と判断すれば行政機関の障害事例登録サイトにも直接登録できるものとします。

【研究期間】2013年1月～2017年6月30日（西暦）

【調査内容】

背景因子：

- ・登録年齢、性別、患者居住区（都道府県市）、職業
- ・皮疹の部位
- ・診断名・原因となった製品、物質名
- ・治療期間
- ・転帰
- ・その他のアレルギー疾患の既往、合併（喘息、アトピー性皮膚炎など）

登録する検査項目：

- ・パッチテスト
- ・ROAT (Repeated open application test: 繰り返し貼付試験)
- ・使用試験
- ・プリックテスト

【研究責任者】

鶴田 大輔

所属・職名：大阪市立大学 皮膚科 教授

住所：大阪市阿倍野区旭町 1-4-3

電話番号：06-6645-3826

FAX 番号：06-6645-3828